

伝統医療薬物学 Traditional Medicine Pharmacology

薬：C1-13211MY

基礎科目 2年／前期 1.5単位 必修科目

科目責任者 馬場 正樹(臨床漢方研究室)

■ 教育目的

近年、伝統医学・伝承薬物が見直されてきており、医療現場でもその知識が要求されつつある。特に、漢方医学は広範な知識を必要とするため、漢方医学・中医学の基礎理論を中心に概説し、その理論体系を学ぶ。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、YD-③】

■ 学習到達目標

1. 漢方の基礎理論および概念を理解する。(知識)
2. 代表的な処方の方意を理解し、その適用を概説できる。(知識、技能)
3. 漢方の処方選択に至るプロセスを説明できる。(知識、技能、態度)
4. 日本を含む世界の伝統医療の現状について概説できる。(知識)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：事前公開のプリントを中心に参考書等の該当箇所を目を通しておく(20分以上)

復習：ノートや講義プリントを参考書等で確認する。(30分以上)ネット情報は誤りも多いので注意すること。質問は随時受け付ける。

■ 授業形態

講義

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1～10	漢方基礎理論(1～10)	東洋医学の歴史、東洋医学の理論背景、配合生薬の四気五味(気味・性味)、五臓六腑、陰陽五行・八綱分類、気血水理論の基礎、六病位、診断法などについて	
10～14	漢方の実際(1～5)	汎用漢方薬の臨床での活用について	
15	現代の漢方・まとめ	現在の漢方薬を取り巻く状況、問題点について全体のまとめ	

■ 授業分担者

馬場 正樹(No.1～9、15)、島根 涼(No.10～14)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

定期試験(80%)、Web 課題・受講態度等(20%)により評価する。

Web 課題に関するものも含め質問は随時受け付ける。

■ 教科書

『パートナー生薬学』改訂第4版増補 木内文之ら編(南江堂)

その他、随時プリントを配布する

■ 参考書

『実践 漢方生薬学』第2版 小池一男ら編(京都廣川書店)

『薬学生のための漢方医薬学』改訂第3版(南江堂)